

# ニューフェイズ

2005年11月発行  
第9号

NEW PHASE (新しい風)

いつも気持ちを新たに、新しい風を翼にのせて!

## 沖縄県女性の翼の会 平成17年度 宿泊研修・県外研修4日間



### 沖縄県女性の翼の会宿泊研修

講演「小さな達成感を積み重ねていく心持よさ」  
講師 沖縄スタンダードクラス代議取締役 松島 明美

「男女共同参画行政について」  
沖縄県文化環境部 平和・男女共同参画課  
課長 米 塚 博美



平成17年6月25日(土)～6月26日(日)

リザンシーパークホテル谷茶ベイにて

#### ★★★女性の翼の会活動方針★★★

- (1) 女性海外セミナー『女性の翼』事業を広く紹介し、事後活動に努める。
- (2) 会員相互の研鑽と親睦に努める。
- (3) 女性団体活動や地域活動を通して、地域社会の発展に貢献する。
- (4) 海外研修の体験を活かして、女性の地位向上、国際交流の促進に寄与する。

# 第12回宿泊研修

平成17年6月25日(土)～6月26日(日)  
リザンシーパークホテル 谷茶ベイにて  
参加者 82人



沖縄県 平和・男女共同参画課 課長  
米 蔵 博 美



県出納長  
新 垣 幸 子



副会長  
座間味 好 子



副会長  
宮 平 叶 子



司会 (研修)  
宮 城 貞 子



9期  
與 儀 千 代 子

講師：沖縄ステンドグラス代表取締役 **鮫島清美**



私は30万円の資本金で始めて、26年間この仕事をしてきた。社員採用は、元気で明るい子を選ぶ。人にどういう印象を与えるか、好感度、雰囲気、声をかけてもらえる人。仕事をする時、机の上が綺麗に整理整頓されることによってロス時間がない。責任ある仕事出来るように、1分間10円ですと、従業員に教える。能率よく仕事をする。女性には管理能力がある。女性を信じ全員女性。社員中心のシステムを採用している。私の達成感と言うのは、毎日の積み重ねである。



「マツケンサンバ」  
役員の皆さん

楽しそうに踊る  
安次富 会長



「夫婦坂」  
屋 良 千 枝 美  
(18期)



司会 (18期)  
大 城 洋 子



「紅バラ白バラ」  
宇 室 久 美 子  
(18期)



「真っ赤に燃える太陽」 (19期)



「うとうるさむんや みーぶさん」 (20期)



グループ討議



グループ討議 発表

## グループ討議 20周年記念事業の持ち方について

- ・記念式典は提案通り、一部、二部。
- ・シンポジウムよりは記念講演。講師は県内。
- ・会費は3,000円～5,000円。
- ・記念品の饅頭は廃止。
- ・記念誌は了承。チャリティはチケットの割り当てが難しい。それより寄付金を頂く。企業から広告をとる。
- ・パネル展示、ビデオによる映像。
- ・年表の対比を追加。
- ・翼の会になってからの表彰、それ以前は国レベル。
- ・一口3,000円の寄付を集める。
- ・記念式典は平成18年10月4日(日)パシフィックホテル。2時～5時祝賀会も含めて、どういふのを式典に入れたいのか。
- ・財務班、150万円積立てされている。予算案200万円、不足分の資金造成50万円
- ・会員が何%会費を納めているか。70%
- ・資金造成について、全会員から2,000円。
- ・記念誌100頁で、500部作る。委員に任せる。
- ・20年のアルバム「20年間を振り返る」のグループ討議。辞は県知事。ていする館長。



懇親会に大喜び



オーストラリアで教えてもらった「ラインダンス」 (21期)

# 交流会と懇親会 第5回 県外研修

平成17年10月20日(木)～10月23日(日)  
参加者 福島県女性団体・沖縄県21名

第5回県外研修が、平成17年10月20日～23日まで福島県二本松市「男女共生センター」で行なわれました。「国際女性教育振興会福島県本部」と、NPO法人「市民メディア・イコール」との交流会を持ちました。男女平等とあらゆる差別のない社会の実現をめざし日々活動しているグループとの交流の中で、古い慣習(男尊女卑)と闘って来た世代のこれまでの活躍、そしてそれが若い人に引き継がれている福島県の新しい波を感じることができました。老いも若いも頑張っている姿に我が翼の会も大いに刺激を受けました。



福島県女性団体と記念撮影



「ゴーヤーのブローチとサーターアンダギー」を沖縄から、「梨」を福島から頂く



リンゴ狩り風景



# がんばってます!



## “一步一步”

3期 (浦添市)  
天野 美智子

あの暑さが嘘のように、ここ山原はふよふよの花が咲きほこり、束の間の秋のおとずれ、そして年の終わりの近いことを感じさせている。

「女性の翼」派遣事業も回を重ね、20周年とのこと。縁あって昭和61年に参加をし、自分なりに感動をし、触発を受けながらも、今は安穏と山原ぐらしに甘んじている。

山原ぐらしの目的は、自分の意志で好きなように集い過ごせる女たちの空間づくりだった。茶房を起業し、地域の食材を活かす食のクリエイターとして頑張っているが、果たしてそれはその前段と言えるのだろうか。言えることは、キラキラ輝いていたあの頃を「金色」と例えるなら、地域のリーダー、女性の地位向上という潜在意識を人一倍持ちながら、ニーズに合わせ日々忙殺されている今、青春真只中であり、それはそれで「いぶし銀」なのだろうということ。

「翼の会」もこの20年の歳月、活動を広げ、年齢層の幅、ジャンルの違う各期の会員の活躍をたて糸に、色あざやかな広い布を織り上げた。

続けることの大事さ、頑張ることの大切さを「翼の会」の活動で知るにつけ、私の毎日が小さな一歩ではあっても前を向いて、進んで行こうという勇気が湧く。

前進しよう。無理をせず。一歩ずつ。



## “ありがとう!”

12期 (那覇市)  
多和田 栄子

35年間行政の中で働き大きな方向転換を余儀なくした。一人でも多くの女性が政策決定の場で頑張ってもらいたいという思いからであった。決断するにはとても勇気のいることであったが周囲の女性たちからの励ましに支えられ、議員としての道を歩むに至っている。

那覇市は現在、44名の議員中女性はわずか4名です。各委員会、各種審議会委員を決めるにも根まわしがされ、性がいいかにその中で頑張っていかなければならないかというのを実感している。そのためにも身近なところから教育の問題として、二学期制のあり方や、不登校の問題、子育て支援や、ゴミ問題等女性の視点を活かし発言していきたい。特に子育て支援については、35年間の行政での経験を活かして積極的に関わっていきたいと思う。

更に女性の翼研修への参加も常にやる気と行動力の賜物が今日の私を成長させてくれたものと思っている。

新米議員一年生としてこれからも皆様からのご指導をいただき頑張っていきたいと思う。

最期に、私を支えて下さった皆様へ感謝を申しあげお礼とします。

お互いに頑張りましょう。

失語症友の会ハワイ交流会の旅でカチャーシーを披露する県内からの参加者  
=10月30日、ハワイ州ホノルル市内



# 家族とともに ハワイ楽しむ 失語症友の会

大城貴代子さん(1期)のご活躍が琉球新報朝刊で紹介されました  
(平成17年11月15日)

全国の失語症者や家族が参加する「失語症友の会ハワイ交流会の旅」にこのほど、県内から三家族十人が参加した。ポランディアも含め、全国からは五十四人、ハワイからは四十四人が参加し、土産交換や体験発表、フラダンスやカチャーシーを踊り、緑豊かなハワイで交流を楽しんだ。

ハワイ大学言語病理学科のランディ・ウエルバーさんは「障害があっても好奇心を持って旅をするという意志が大切。話せなくてもコミュニケーションをとり、友達になれる」と歓迎した。

県内からの参加者は地元ラジオ放送局KZOを訪問し、番組にも出演した。

参加した県脳卒中中等リハビリテーション推進協議会の大城貴代子常務理事は「海外旅行は移動が大変で障害者はあきらめが先に立つが、家族が同伴でき、バリアフリーの行き届いたハワイは最高のリハビリテーション」と旅の良さをアピールした。